

第1学年音楽科学習指導案

1. 題材名 おんがくに あわせて
教材名 「じゃんけんぽん」 「けんけんぱ」 「ぶんぶんぶん」
「しろくまのジェンカ」 「かたつむり」 「うみ」

2. 題材のねらい

歌ったり身体表現をしたりして、拍の流れを感じとることができるようにする。
拍の流れに乗って、簡単なリズムが表現できるようにする。

3. 指導の実際

体を動かすことが大好きな1年生38名である。歌も好んで歌う子どもが多く、とっつきにくい校歌も、短時間で覚えてしまった。中には地声でがなりたてるように歌う子どももいるが、否定はせずに気持ちを認めている。音楽の時間は楽しいという印象を持たせたいと考えながら、授業をしてきた。ゲーム的要素やリズム遊びを取り入れて進めている。

この題材では、リズムに焦点をあてて表現や鑑賞の活動を通して感覚や表現の力を伸ばしていくことをねらっている。音楽の拍の流れを感じながら歌ったり、手拍子やカスタネットなどで基本的なリズムフレーズを打ったりすることができるようにしていく。そのため、子どもたちの日常的な遊びや動作を通して、リズムに対する感覚や表現の能力を身につけるための活動を重視している。

幸いなことに、行事の関係で音楽の授業がつぶれたりすると「え～！」「音楽やりたーい」という声が出てくる。実際に体を動かしながら歌う場面や、動物などになりきって動き回る場面を見ると、体の動きが小さい子どもや対象になりきれない子どもも見られるので、友達と関わり合って遊べる要素を取り入れて学習を進めようと考えてきた。

ここで扱う教材はどれも体を動かしたり音遊びをしたりする曲である。これをさらに発展させて様々な音遊びをやってみた。

- 「わけっこ」 二つのグループを作り、一つの曲をフレーズごとにかわりばんこに歌う。
「はとぽっぽ」の例) グループ「ぽ ぽ ぽ」 グループ「はとぽっ

ぽ」

「まめがほしいか」 「ほらやるぞ」...

- ・ 始めのうちは競争のような感じでむきになる人もいたが、全員がおなかから声を出して大喜びで歌っていた。慣れてきたらグループを増やしたり、1人ずつリレーのように歌ったりすることもできる。

- 「おまんじゅうひとつくださいな」 2人で向き合い、右手をグー（おまんじゅう）、左手をパー（皿）にしておまんじゅう（グー）を相手のさら（ぱー）の上に乗せる。「おまんじゅうひとつくださいな」と言って「せーの、ぽん」でグーをパーに、パーをグーにして皿の上におまんじゅうに乗せる。

・簡単にできるが、だんだんに速くしていくとおまんじゅうの上に皿を乗せてしまう子どもが出てきて楽しい。「おまんじゅう二つ、くださいな」と言って連続してリズムカルにやってもよい。おまんじゅうの数を増やすこともできるし、みんなで輪になって隣の人の手でやることもできる。

○「どすこい」

両手をパーにして、片方を前に突き出し、もう片方を胸に当てる。歌に合わせて前に突き出す手を換える。「かたつむり」や「しろくまのジェンカ」などでやるとよい。

・簡単のようだが、意外に続けることができなくて夢中になって練習していた。1人でもできるので、音楽の終わった後の休み時間はあちこちで練習風景が見られた。パーがクリアできたら、胸に当てるほうはグーにするようにすると、また夢中になってやりだす。ほかに、上に突き出したり上と下にしたりとバリエーションを替えて楽しめる。

このほか「はないちもんめ」や「お寺の和尚さん」(手遊び)、「あんたがたどこさ」(「さ」のところを相手の手と打ち合わせる)など、毎時間音遊びを取り入れている。

4. 成果と課題

< 成果 >

- ・音楽の学習に対して、意欲的に取り組もうとする姿が持続している。
- ・拍(手拍子)の取り方がそろってきた。
- ・友達と関わりながら、リズム遊びができるようになった。
- ・身体表現に抵抗感を持つ子どもが減った。
- ・できたという成就感を友達と分かち合うことができ、また、そのために友達同士教え合ったり、励ましあったりする姿が見られるようになった。

< 課題 >

- ・2人組みを作ると、うまくできる子同士がペアになりたがり、できないもの同士で組を作ることになるので、なかなか上達しない子どもが出てくる。
- ・元気よく歌を歌うが、フレーズや声の音色に注意をはらって歌う様子はほとんど見られない。
- ・手遊びをするとどうしても歌がおろそかになりがちである。
- ・虫や動物などになりきっての動作化には、まだ抵抗感を持つ子どもがいる。